

ようこそ
日本のふるさとへ

生命いのちと神話かみわらが息づく新しい日本のふるさとづくり

2014 雲南市市勢要覧



島根県 雲南市



ごあいさつ

雲南市長 速水雄一

平成16年11月1日、平成の大合併では島根県内唯一の新たな市制施行によって誕生した雲南市は、今年10年目という節目の年を迎えました。

この10年間、私たちは「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」を掲げ、新しいまちづくりを進めてまいりました。この間には、地域自主組織が市民の皆様のご努力により立ち上がり、温かい地域づくり、前向きな地域づくりに取り組んでいただいています。

さて、雲南市は、10周年を迎え、これから次の新しい10年を踏み出すこととなります。私は、次の10年においては、雲南市の持続可能な地域づくりのために、定住人口の増加こそ最重要課題であると考えております。そのために、「安心・安全なまちづくり」、「活力と賑わいのあるまちづくり」、「健康長寿・生涯現役のまちづくり」に取り組みます。

また、本年4月には、いよいよ新庁舎建設に着手し、平成27年8月の完成を予定しております。一方、中国横断自動車道尾道松江線が平成26年度中には尾道まで全線開通の予定ですが、これによりしまなみ海道を経て四国までつながり、いよいよ陰陽が高速ネットワークにより繋がる時期を迎えます。

今後も雲南市が継承してきた恵みを活かし、様々な課題に、市民の皆様と共に手を携え、助け合い、情報を共有しあいながらまちづくりを進めて参りたいと考えます。

雲南市のプロフィール

地勢

島根県の東部に位置し、面積は553.37㎦です。北部には出雲平野や宍道湖が広がる松江市、出雲市と接し、南部には中国山地が連なり、広島県に接しています。

市内には、斐伊川と支流の赤川・三刀屋川・久野川などのほか、神戸川に注ぐ稗原川、波多川が流れています。このため、加茂町から大東町、木次町、三刀屋町にかけ、斐伊川と赤川、三刀屋川の合流地点を中心に平坦部が広がっていますが、南部は中国山地に至る広範な山間部となっています。

歴史

市内各地には神話や伝説が残り、多くの遺跡や古墳が発掘されています。こうした遺跡や神社、地名の由来は「出雲国風土記」にたどることもできます。また、平成8年10月には一カ所の出土としては全国最多となる39個の銅鐸が加茂岩倉遺跡から出土しています。

市の中央を縦断する斐伊川は、ヤマタノオロチ伝説でも知られ、古くから支流周辺の低地では農耕が営まれ、また、山間部ではたたら製鉄や炭焼きが盛んに行われてきました。

雲南市は、山陰と山陽を結ぶルート上に位置するため、古くから交通の要衝として栄えてきました。明治5年の廃藩置県や明治22年の町村制施行、昭和27～33年の町村合併などを経て、平成16年11月1日、大東町・加茂町・木次町・三刀屋町・吉田村・掛合町の6町村が合併し、雲南市としてスタートしました。

人口

雲南市の人口は、平成22年国勢調査によると41,917人で平成17年国勢調査と比較すると、2,486人(△5.6%)減少し、うち65歳以上の高齢人口が占める割合は、32.9%と年々高齢化が進んでいます。年齢別人口構成は、少子高齢化が進み、平成2年には高齢化率が年少人口割合を上回り、平成22年には年少人口割合は12.2%となりました。

産業

農林業

木次町・吉田町を中心に有機農業への先駆的な取り組みが行われ、安心・安全な農産物の生産地として評価を得ており、米や畜産、野菜、花き栽培など良質な農畜産物が生産され、乳製品やワイン、味噌などの多彩な加工品も作られています。零細な経営基盤が多く、農家の高齢化は進んでいますが、産直市や関西方面への販売など独自の販路も確保され、また集落営農組織や農業法人、Uターン等の新規就農者による営農も取り組まれています。

一方、野生鳥獣による農作物等への被害が深刻化しているため、猟友会による捕獲や防護柵の設置など様々な獣被害防止対策を実施しています。

林業では、国内の木材価格は低迷していますが森林組合等による素材生産は伸びており、更に豊富な森林資源の新たな活用策として、木質チップボイラー等の整備を中核として市民参加による林地残材の収集運搬や地域通貨も活用した森林バイオマスエネルギー事業の取り組みを進めています。

工業

木次町・加茂町等に工業団地が整備されており、誘致企業をはじめとする事業所が立地しています。特に木次町には一般機械製造業、電気機械製造業等の集積がすすんでおり、平成24年工業統計調査の製造品出荷額は県内第4位となっています。産業分類別で見ると、食料品、衣料、木材、一般機械などの事業所が多くみられます。

商業

木次町や三刀屋町が小売業中心地となっており、商業集積や商業環境が充実しています。一方、他市町の大型店や専門店への消費の流出により、各町の中心市街地の商店街では空洞化や低迷が顕著になり、「中小企業振興基本条例」に基づき、総合的な地場企業の振興による地域経済の活性化の支援を行います。

観光

豊かな自然・歴史資源に恵まれており、観光資源が豊富にあります。公園・温泉・博物館・ゴルフ場・道の駅等の観光・レクリエーション施設も多数整備されており、雲南市には年間144万人が訪れています。

雲南市総合計画

まちづくりの基本理念

「^{いのち}生命と神話が息づく 新しい日本のふるさとづくり」
～ふるさとの五つの恵みを活かした地域ブランドづくり～

「新しい日本のふるさとづくり」へ

私たちのふるさと雲南市は、銅鐸やたたら製鉄の歴史遺産、桜や虫にみられる生命の輝きなど先人たちが守り育ててきた多彩で魅力ある資源を保有しています。

今日、我が国は、「ふるさと」がもつ多様な豊かさを急速に失いつつあります。

かつて、この地に神々が住まれ、日本のふるさとづくりが始まったことに思いを馳せれば、雲南市は、日本のふるさとともいえます。その雲南市で、私たちは、ふるさとで生きる豊かさを大切に継承し、発展させていく意味を込めて、五つの恵みを提唱します。

私たちは、雲南市で、共に生き、共に責任を担いながら五つの恵みのある「^{いのち}生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」に取り組めます。

『五つの恵み』のあるふるさと

- ◎ 笑顔あふれる地域の絆
- ◎ 世代がふれあう家族の暮らし
- ◎ 美しい農山村の風景
- ◎ 多彩な歴史遺産
- ◎ 新鮮で安全な食と農

「新しい日本のふるさとづくり」 にむけたシナリオ

雲南市総合計画では、「^{いのち}生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」を基本理念に、市民と事業者、行政がめざす雲南市の五つの将来像を示し、五つの将来像には、それぞれ将来目標を設定しています。また、具体的な施策を進めていくうえで、特に連携をもって将来像を実現し、計画の指標を達成するために総合的に進める施策を優先プロジェクトとして設定しています。



分野別将来像／まちづくりの将来目標

市民と行政の協働によるまちづくり 《住民自治》

- ◆ 躍動、私の夢かなうまち
- ◆ 参加、みんなの力で創るまち
- ◆ 発信、地域の宝を活かすまち

環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり 《定住環境》

- ◆ 神話と自然を活かした田園都市
- ◆ 環境にやさしく住みたくなるまち
- ◆ あたたかい人の和で安心安全なまち

地域で支えあう暮らしづくり 《保健・医療・福祉》

- ◆ 安心して子育てのできる支えあいのあるまち
- ◆ 誰もが生涯健康でいきいきと生きがいをもって暮らせるまち
- ◆ 身近に感じる福祉の窓口づくりと地域医療体制の充実

ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり 《教育・文化》

- ◆ 愛といのちを育む教育環境の充実
- ◆ 共に歩む生涯学習社会づくり
- ◆ 人生を豊かにする文化・スポーツの振興

賑わいあふれる雲南市 《産業・雇用》

- ◆ 暮らしたくなる、働きたくなる
- ◆ 「らしさ」を活かすモノづくり
- ◆ 世代、地域、時代(とき)をこえた交流

優先プロジェクト 地域ブランド向上による交流事業の拡大

- ◆ 地域外ブランドの醸成
地域の魅力を発信し多くの人々が交流する地域づくり
- ◆ 地域内ブランドの醸成
住みよい・暮らしやすい愛着と誇りある地域づくり

※平成26年度は、現行の計画(計画期間：H19～H26)の最終年度となることから、これまでのまちづくりを振り返り、新たな10年の指針となる第2次雲南市総合計画(計画期間：H27～H36)を策定します。

平成26年度の主な取り組み

市民と行政の協働によるまちづくり 《住民自治》

地域自主組織（主に小学校区を単位とした地縁組織）と行政が、お互いに対等な立場で話し合う円卓会議の場も設け、協働によるまちづくりを進めています。特に、地域の窓口一本化や“雲南ゼミ”の開催、元気な地域づくり活動発表会など、地域の課題を解決していく持続可能な地域づくりを確立するために必要な小規模多機能自治を推進しています。

また、定住推進員を配置して移住希望者の住む場所、働く場所だけでなく、移住後の地域とのつながりまでをサポートをしています。さらに、都市在住の単なる田舎暮らしではなく地域との協働や交流を希望される方を主な対象とした「雲南暮らし体験ツアー」を実施するなどして定住人口増加対策に取り組んでいます。



円卓会議方式によりテーマを設定して協議しています

地域で支えあう暮らしづくり 《保健・医療・福祉》

雲南圏域の中核拠点である雲南市立病院の実施設計を平成26年度に行い、平成28年度中の新棟完成を目指しています。

また、保育・教育の一体的なサービス提供や地域ニーズに応じた子育て支援施策の充実に努め、その一環として、子育て相談の総合的な窓口「子育て相談室」を設置しています。

このほか、特別養護老人ホームの増築、認知症の早期発見・早期治療への対応、高齢者等の外出支援としてタクシー利用料助成の対象年齢引き下げなどに取り組んでいます。



新棟建設する雲南市立病院

環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり 《定住環境》

将来に向けた都市づくりの基本方針「雲南市都市計画マスタープラン」に基づき、中心市街地整備や暮らしやすい都市機能整備のための計画づくりを進めています。

また、定住・移住人口の拡大及び地域経済の活性化を図るため、新築住宅の取得の際に固定資産税を一定期間課税免除する制度を拡充しています。

このほか、災害時の緊急情報伝達手段の多様化を図るため、防災行政無線の整備に向けた調査設計や、公共交通サービスの一つとして、一部の地域でのデマンド型乗合タクシーの運行に取り組んでいます。



市内でデマンド型乗合タクシーの運行が進んでいます

ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり 《教育・文化》

質の高い教育の実現を目指し、保育所・幼稚園・小中学校まで系統立てたキャリア教育や、小学校の英語教育の対象年齢を3・4年生に拡げ、国際的な視野とコミュニケーション能力を備えた子どもたちの育成に取り組んでいます。

また、児童生徒が安全で安心して学校生活を送ることができるよう、教育相談・支援体制を整備し、一人ひとりに必要に応じた支援を行いながら、不登校への対応やいじめ防止に取り組んでいます。

併せて、学習環境のさらなる充実に向け、市立小中学校へのエアコン設置を平成26年度から約5年間かけて行っていきます。

このほか、地域資源や人材を活用し、小・中・高校生の土曜日の教育活動を行っています。



国際交流員と交流する小学校児童たち

賑わいあふれる雲南市《産業・雇用》

平成26年度末の中国横断自動車道尾道松江線の全線開通を控え、新たな産業拠点となる神原企業団地の整備に向けた取り組みを進める一方、中小企業振興基本条例に基づき、地域の雇用や地域経済の活性化を図っています。加えて、松江自動車道の加茂岩倉パーキングエリアから国宝指定の銅鐸が出土した加茂岩倉遺跡まで徒歩で行けるように周辺整備を進めています。



スパイスプロジェクトの新展開「スパイス鍋」

また、農商工連携によって雲南市産のブランド唐辛子を使用した「うなんんスパイスプロジェクト」や新鮮な牛乳や卵を生かした「うなんんスイーツの杜プロジェクト」など、雲南市の「食の幸」を発信しています。

このほか、森林バイオマスエネルギー事業として、市内3基目のチップボイラー設備を整備しています。



満湯の湯に導入されたチップボイラー設備

雲南ブランド化プロジェクト

幸運なんです。
雲南です。

雲南ブランド化プロジェクトは町村合併で誕生した新しい自治体として、「一体感の醸成及び認知度向上」を目指して、平成19年7月にキックオフしました。

「幸運なんです。雲南です。」をブランドシンボルに「自然、歴史、食、人」の幸（地域資源）に感謝し、誇りをもってまちづくりを進めようというコンセプトで「住みたい、産業振興、交流人口拡大」の3つのプロジェクトで推進してきました。平成26年度からは、それらの活動をベースに更に新しいチャレンジに取り組み、課題先進地から課題解決先進地を目指すこととしています。

（これまでの取り組み成果）

● 保幼小中を通じたキャリア教育の推進により「ふるさとへの愛着心」が高まりました。

● 子どもたちの意識調査【H25年調査】

- (1) 自分の住むまちが好きだ【回答：中学生】
85.6% (H19：30.1%) ≪55%向上≫
- (2) 地域行事に参加していますか【回答：中3】
58.2% (全国平均 41.6%) ≪全国より17%高い≫



中学生キャリアアップ宿泊研修「幸雲南塾inさんべ」

● 自らの地域を良くしていこうと、地域自主組織による地域づくりが進められています。

● 「雲南市に地域自治を学ぶ会」（雲南ゼミ）の発足

全国の地域づくり関係者が雲南市の事例を学ぶため来市。毎年5月と11月に2回開催し、これまでおよそ100名が参加。



鋼山地区では、地域で「水道検針（受託）×見守り活動」を展開。

● 農商工連携による雲南ならではの商品開発に取り組まれています。

● 地元食材を活用した新たな商品開発

市内事業者が連携して「スイーツ」「スパイス」など5つのプロジェクトを展開。「杜のズコット」が、ひろしま菓子博2013で農林水産大臣賞を受賞。



杜のズコット



市内19店舗で取り組むスパイス鍋

● 意欲ある若者がつながり、そのネットワークは市外へと大きく広がっています。

● 「うなんん若者会議」開催

高校生・大学生・社会人が、地域づくりについてフラットに話し合う企画。ここで出された提案は、今後実行される予定。



JR出雲大東駅の空きスペースに若者の活動拠点が開設。



雲南市観光マップ

見どころいっぱいの雲南市が一目で分かるマップを紹介し、マップを片手に市内各地に広がるふるさとの風景をお楽しみください。

市内にはヤマノオロチの伝説で知られる斐伊川が流れ、各地に神話や伝説が残り、加茂岩倉遺跡などの多くの遺跡や古墳が発掘されています。こうした遺跡や神社、地名の由来は、「出雲國風土記」にたどることもできます。また、古くから斐伊川の支流の周辺の低地では農耕が営まれ、山間地ではたたら製鉄や炭焼が盛んに行われてきました。



須我神社(すがじんじや)

スサノオミコトがヤマノオロチを退治し、クシナダヒメを伴って八雲山(やくもやま)の麓に至ったとき、「我此地に来て、我が御心すがすがし」といわれたことから、この地域を須賀(すが)というようになったと伝えられます。須我神社は、スサノオミコト、クシナダヒメが造ったとされる「日本初之宮」です。この宮を包むように美しい雲が立ち上がるのを見て、スサノオミコトが「八雲立つ 出雲八重垣妻ごみに 八重垣つくる その八重垣を」と歌を詠んだことから、須賀の地は和歌発祥の地ともいわれています。



海潮温泉(うしおおんせん)

斐伊川の支流、赤川の谷あいから湧く温泉で、約1,300年前に編纂された「出雲國風土記」にも記載が残っているのが海潮温泉です。泉質はナトリウム-硫酸塩・塩化物泉、泉温45.9℃で神経痛、慢性消化器病、慢性皮膚病、慢性婦人病などに効能があるといわれています。



加茂岩倉遺跡(かまいわくらいせき)

加茂岩倉遺跡は、平成8年10月14日、農道の工事中に偶然発見されました。出土した銅鐸は、約45cm大のものが20個、約30cm大のものが19個、合計39個と、1カ所の出土としては全国最多であり、平成20年7月に国宝に指定されています。全国最多の銅剣が出土した出雲市斐川町の荒神谷(こうじんだに)遺跡と直線距離で約4キロしか離れていないことから、古代出雲に強大な勢力が存在していたことがうかがわれます。



斐伊川堤防桜並木(ひいかわていぼうさくらなみき)

斐伊川堤防桜並木は、「日本さくら名所100選」に認定された中国地方随一の桜の名所です。毎年3月下旬から4月中旬には、約2km、800本の桜のトンネルが楽しめます。斐伊川堤防に桜が本格的に植えられたのは昭和初期のことで、以来戦争や水害などによる危機を乗り越え、現在に至っています。雲南市では、桜管理の専門職「桜守(さくらもり)」を配置し、樹齢80年以上になる老木の保護や新たな苗の育成に取り組み、桜のまちづくりを進めています。



出雲湯村温泉(いずもゆむらおんせん)

出雲湯村温泉は、斐伊川の中流、奥出雲の山里に湧いた温泉で、出雲國風土記に「漆仁(しつに)の川辺に薬湯あり」と記載されています。さらに、「一たび湯浴みすればすなわち身体和らぎ、再びすすばすなわち万病消える」とも残されており、古くから効能の高い温泉として有名です。泉質はアルカリ単純温泉、泉温は約43℃で、切り傷、火傷、皮膚病、婦人病などに効能があるといわれています。



永井隆記念館(ながいたかしきねんかん)

自らも長崎で被爆しながら、身を挺して原爆傷病者の救護にあたり、病床についてからは「長崎の鐘」、「この子を残して」など多数の名作を著し、全世界に「平和を」の願いを訴えつづけた永井隆博士の遺品を数多く展示しています。



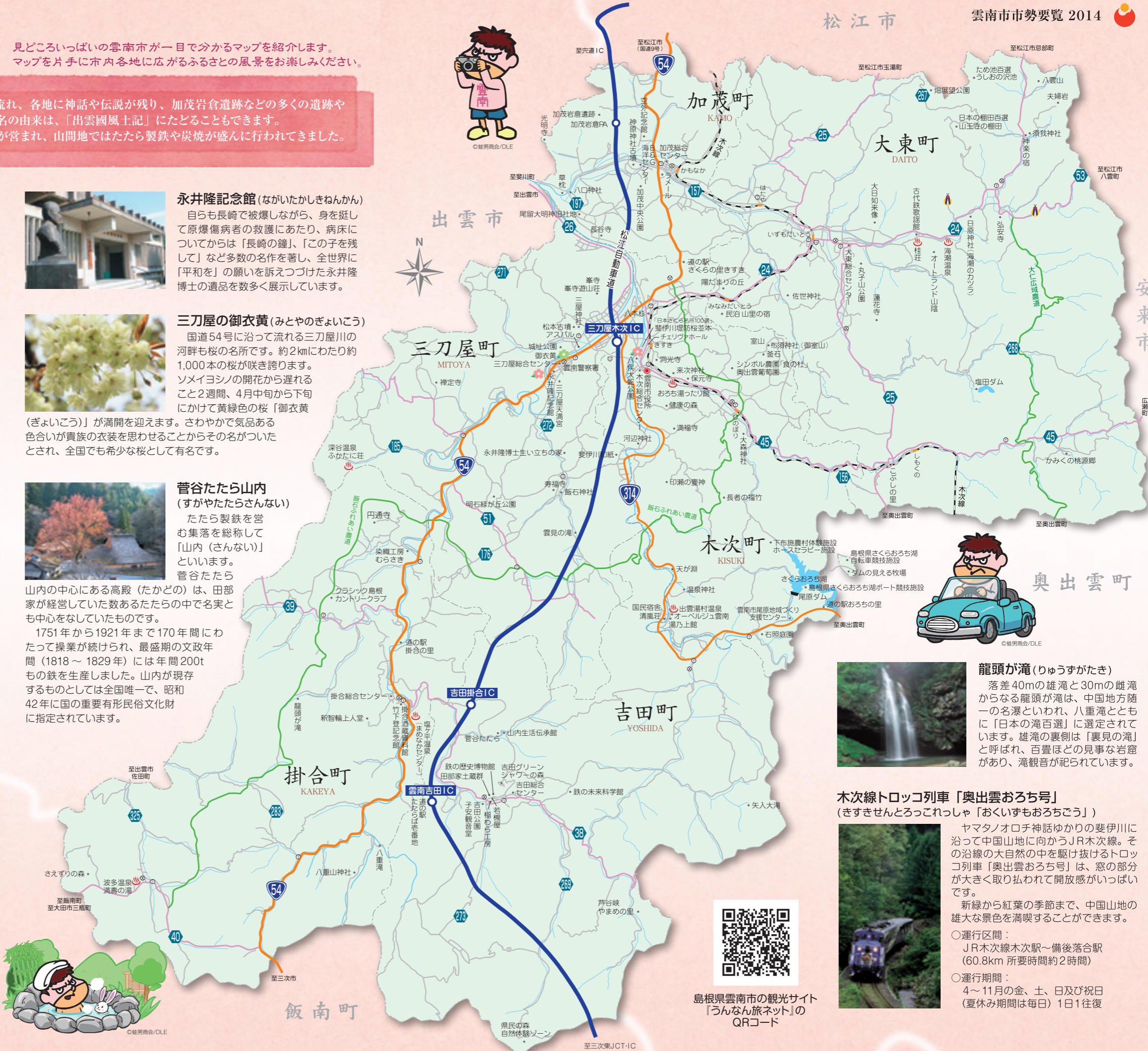
三刀屋の御衣黄(みとやのぎよいこう)

国道54号に沿って流れる三刀屋川の河畔も桜の名所です。約2kmにわたり約1,000本の桜が咲き誇ります。ソメイヨシノの開花から遅れること2週間、4月中旬から下旬にかけて黄緑色の桜「御衣黄(ぎよいこう)」が満開を迎えます。さわやかで気品ある色合いが貴族の衣装を思わせることからその名がついたとされ、全国でも希少な桜として有名です。



菅谷たたら山内(すがやたたらさんない)

たたら製鉄を営む集落を総称して「山内(さんない)」といいます。菅谷たたら山内の中心にある高殿(たかどの)は、田部家が経営していた数あるたたらの中で名実とも中心をなしていたものです。1751年から1921年まで170年間にわたって操業が続けられ、最盛期の文政年間(1818~1829年)には年間200tもの鉄を生産しました。山内が現存するものとしては全国唯一で、昭和42年に国の重要有形民俗文化財に指定されています。



龍頭が滝(りゅうずがたき)

落差40mの雄滝と30mの雌滝からなる龍頭が滝は、中国地方随一の名瀑といわれ、八重滝とともに「日本の滝百選」に選定されています。雄滝の裏側は「裏見の滝」と呼ばれ、百畳ほどの見事な岩窟があり、滝観音が祀られています。

木次線トロッコ列車「奥出雲おろち号」

(きすきせんとろっこれっしゃ「おくいずもおろちごう」)

ヤマノオロチ神話ゆかりの斐伊川に沿って中国山地に向かうJR木次線。その沿線の大自然の中を駆け抜けるトロッコ列車「奥出雲おろち号」は、窓の部分が大きく取り払われて開放感がいっぱいです。

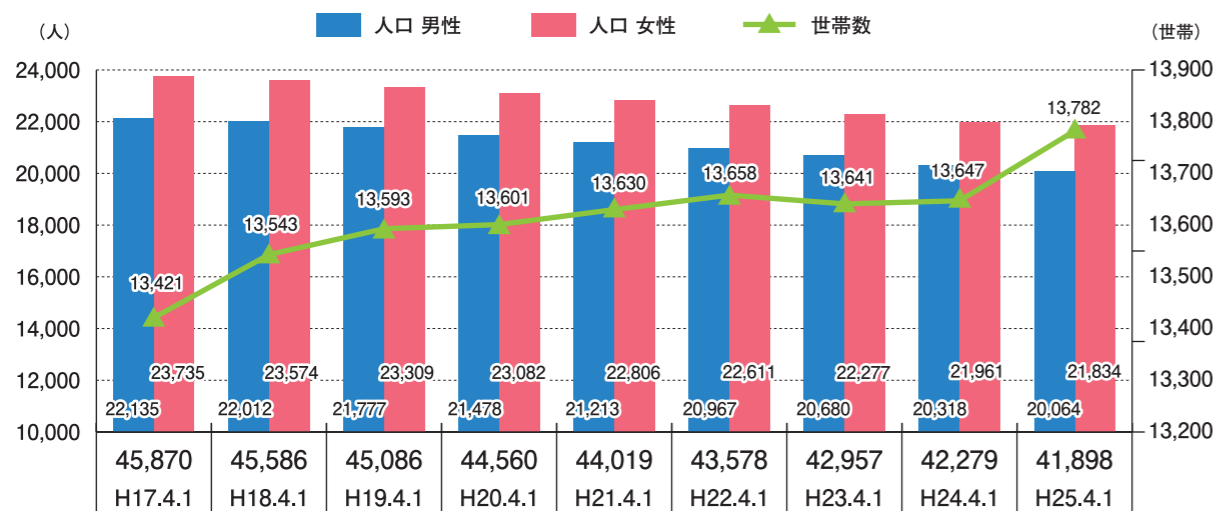
新緑から紅葉の季節まで、中国山地の雄大な景色を満喫することができます。

- 運行区間：JR木次線木次駅～備後落合駅(60.8km 所要時間約2時間)
- 運行期間：4～11月の金、土、日及び祝日(夏休み期間は毎日)1日1往復

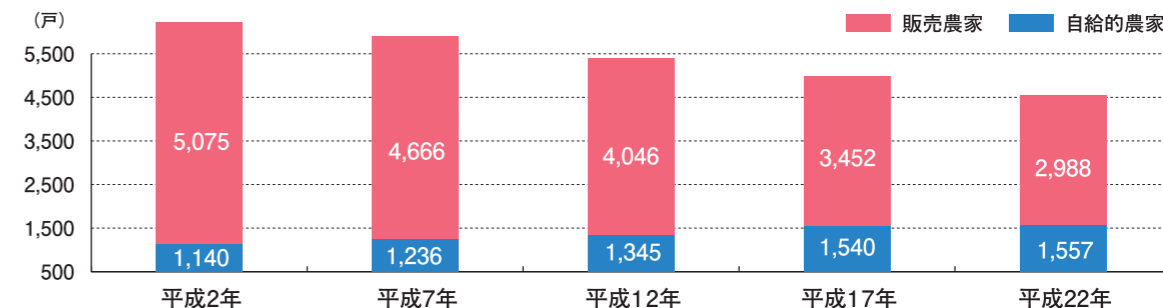


島根県雲南市の観光サイト「うんなん旅ネット」のQRコード

人口及び世帯数 (住民基本台帳)



農家数 (農林業センサス)



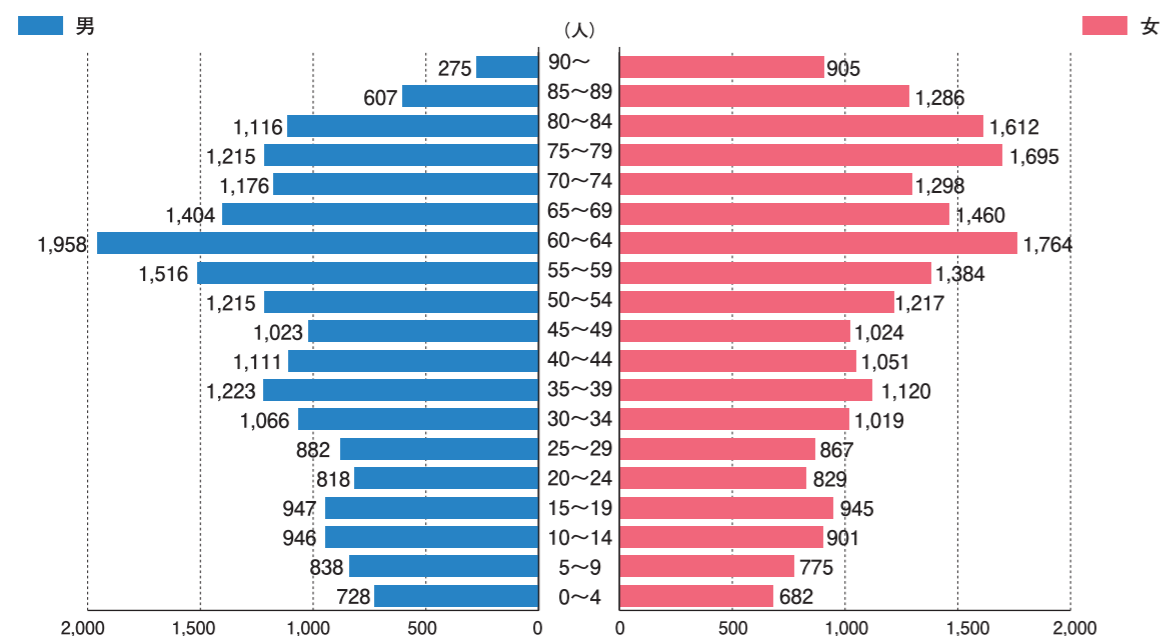
経営耕地の状況 (平成22年農林業センサス)

経営耕地 総面積	田				畑					樹園地
	全体	稲	稲以外	未耕作	全体	普通畑	飼料用畑	牧草地	未耕作	
2,167.1	1,809.1	1,572.7	110.1	126.3	294.8	225.8	11.4	13.3	44.3	63.2

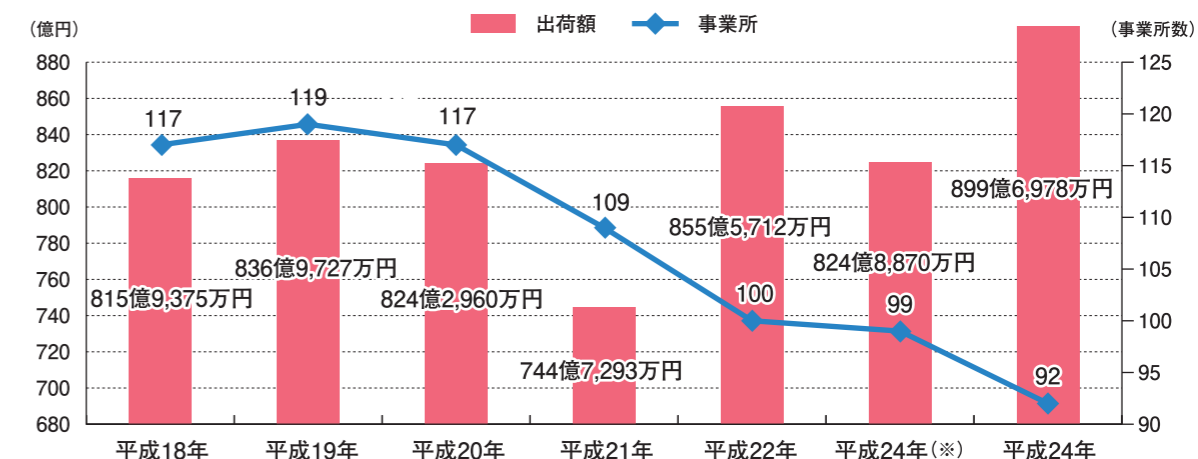
経営耕地面積規模別農家数 (平成22年農林業センサス)

規模(ha)	~0.3	0.3~0.5	0.5~1.0	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0~3.0	3.0~5.0	5.0~10.0	10.0~	経営耕地なし
戸数	12	1,059	1,445	321	85	29	25	7	1	4

人口ピラミッド (住民基本台帳 H25. 4. 1 現在)

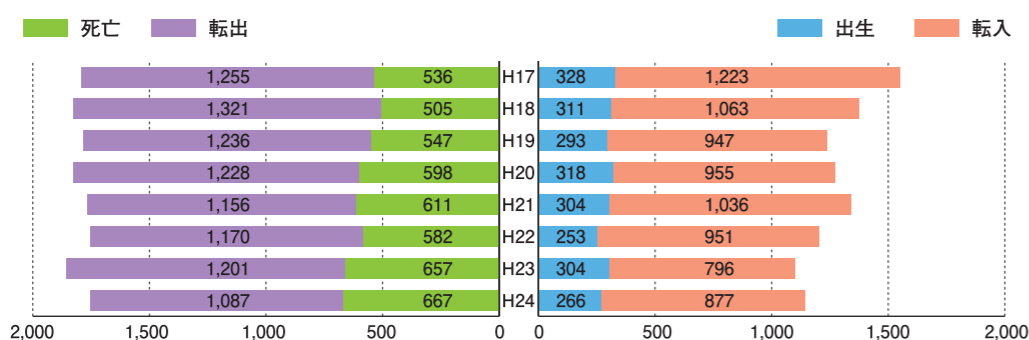


製造品出荷額等の推移 (従業者4人以上の事業所) (工業統計調査及び平成24年経済センサス-活動調査)

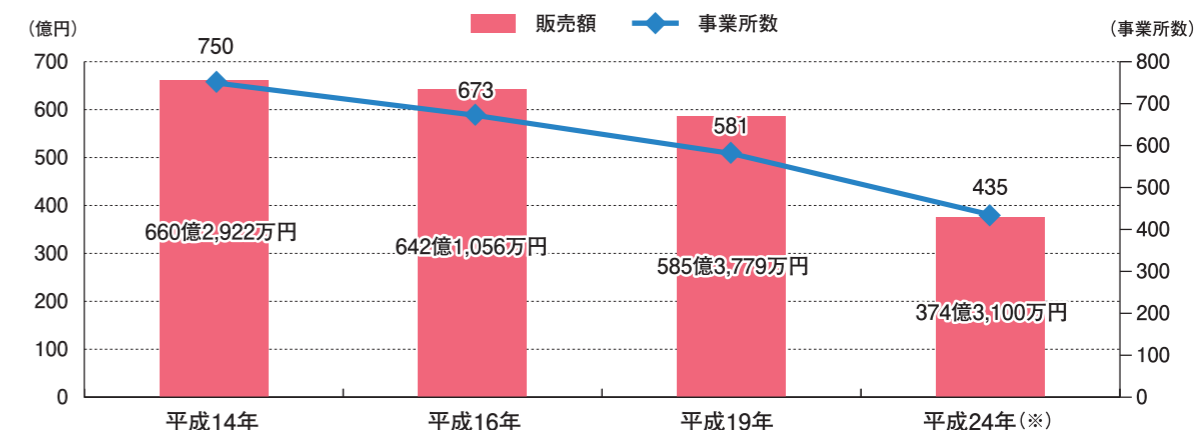


※H23は、工業統計調査(基準日:12月31日)は行われていないため、H24.2.1基準日で実施した平成24年経済センサス-活動調査の結果を参照。

人口動態 (島根県人口動態調査)

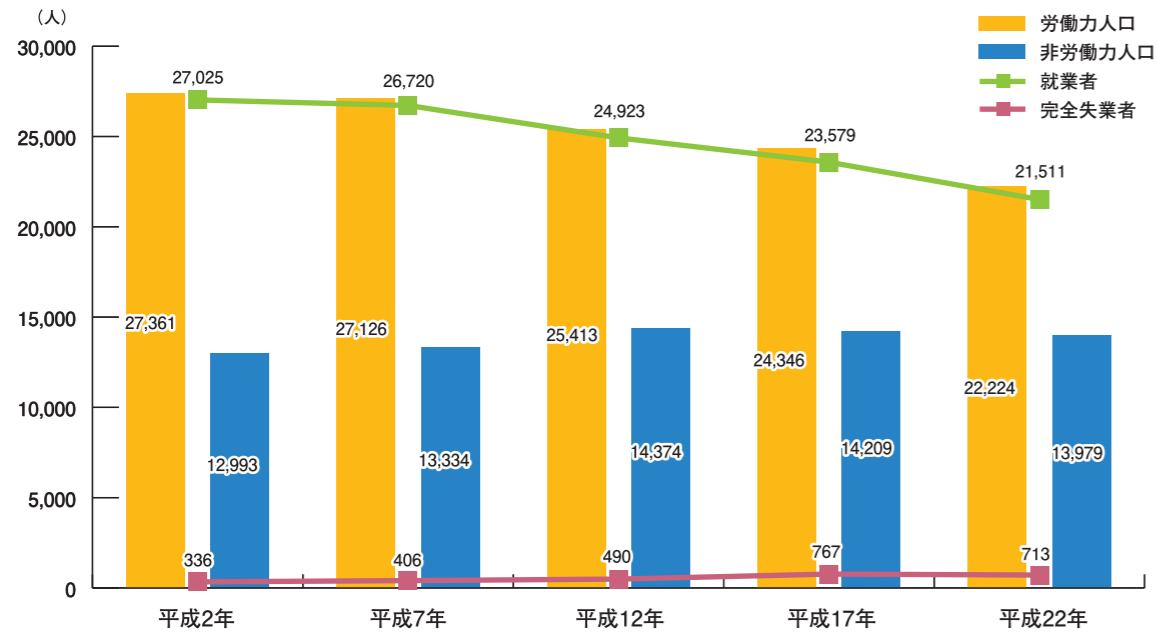


年間商品販売額等の推移 (商業統計調査及び平成24年経済センサス-活動調査)

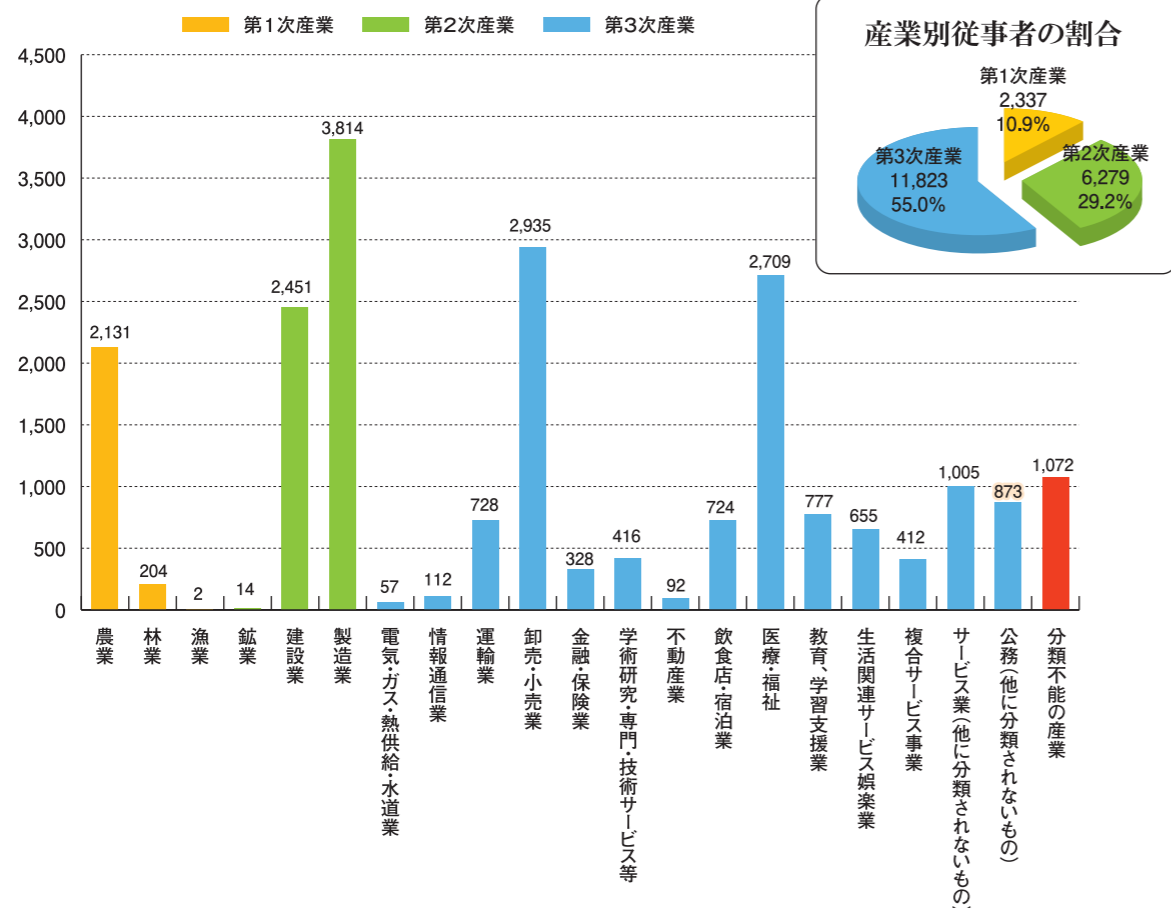


※H19以降、商業統計調査(基準日:6月1日)は行われていないため、H24.2.1基準日で実施した平成24年経済センサス-活動調査の結果を参照。産業分類別に分類できない不詳事業所を除いて集計しています。

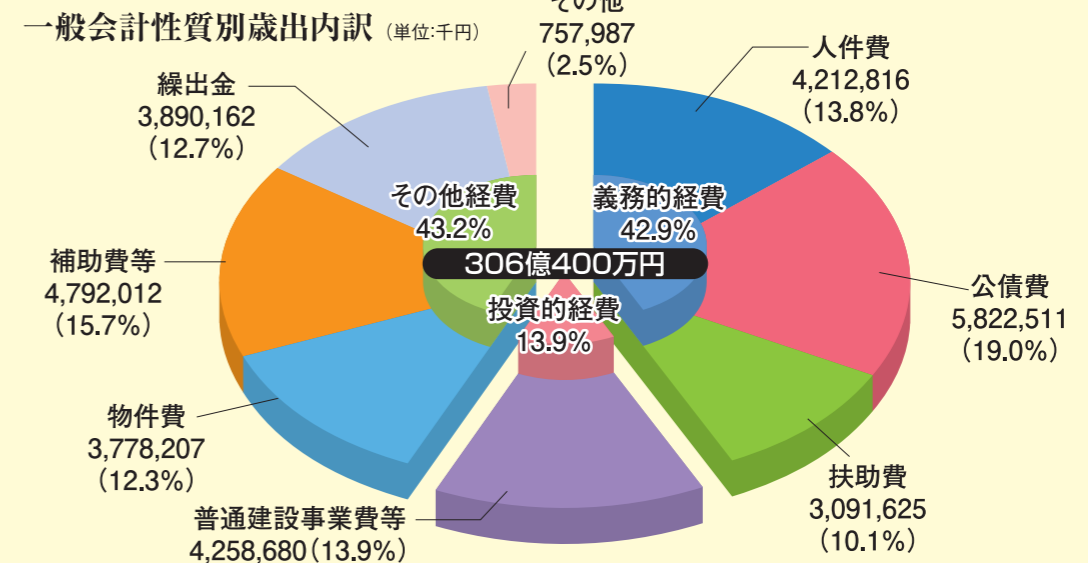
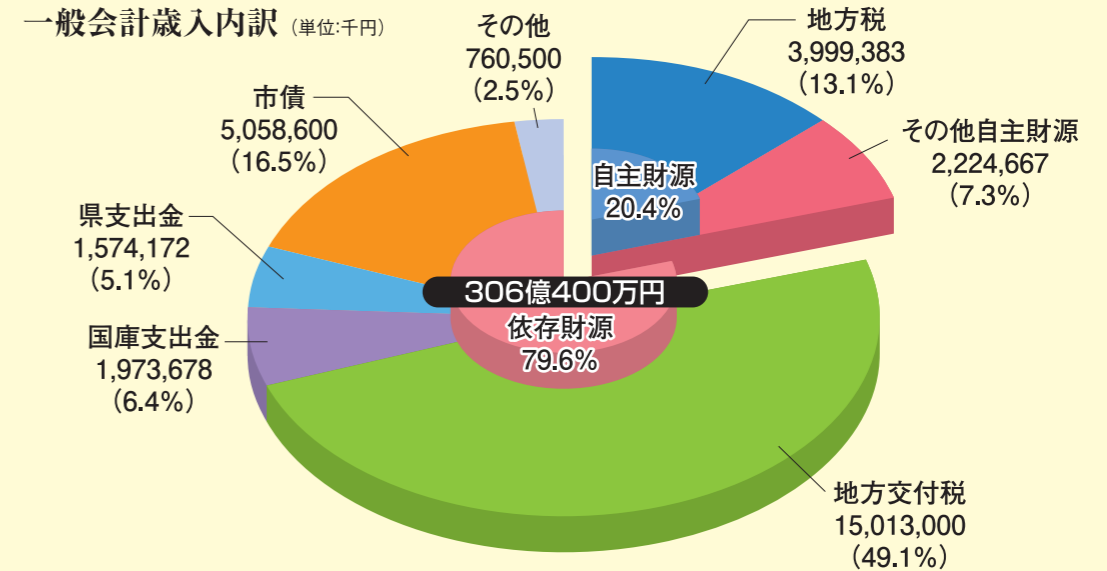
15歳以上労働力状態 (国勢調査)



産業別従事者数 (平成22年国勢調査)

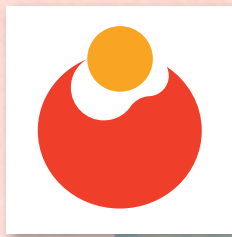


平成26年度 一般会計当初予算額



平成26年度 会計別予算額(当初予算)

会計別	26年度予算額	25年度予算額	増減額	
一般会計	306億400万円	281億3,000万円	24億7,400万円	
特別会計	国民健康保険事業(事業)	47億6,700万円	47億5,100万円	1,600万円
	国民健康保険事業(直診)	1億3,220万円	1億3,450万円	▲230万円
	後期高齢者医療事業	10億6,300万円	10億5,950万円	350万円
	農業労働災害共済事業	510万円	520万円	▲10万円
	簡易水道事業	5億380万円	4億4,560万円	5,820万円
	生活排水処理事業	25億2,370万円	24億7,190万円	5,180万円
	財産区	77.8万円	71.7万円	6.1万円
	土地区画整理事業	5億1,110万円	1億2,560万円	3億8,550万円
	ダム対策事業	1億1,980万円	1億3,780万円	▲1,800万円
	清嵐荘事業	4,760万円	4,310万円	450万円
合計	402億7,807.8万円	373億491.7万円	29億7,316.1万円	



市章

雲南市の「U」をモチーフに、「いきいきとした自然・人・街（ふるさと）」「^{いのち}生命と神話が息づく新しい日本のふるさと」をイメージし、全体として、未来に向かって躍動・発展する雲南市を力強く表現しています。全国公募により、1,480点のデザインの中から、住民アンケートを経て選定されました。

平成16年11月1日制定



市の花 さくら

(バラ科サクラ属／原産地：日本)

選定理由：日本さくら名所100選に選定された「斐伊川堤防桜並木」は、中国地方随一の桜の名所として花の見頃には、多くの観光客でにぎわい、その名を馳せています。また、三刀屋川堤防、丸子山公園、加茂中央公園など市内各地に桜並木があり、地域の皆さんに親しまれています。そのほかにも、三刀屋町の御衣黄桜、加茂町三代の枝垂れ桜などの珍しい桜や巨木など地域で親しまれている桜も多く、市内全域の山々には山桜が自生しています。このように雲南市民に広く親しまれ、全国にアピールできる花として桜を選定しました。

平成18年12月21日制定



市の木 いちょう

(イチョウ科イチョウ属／原産地：中国)

選定理由：いちょうは、落葉高木で秋には黄色く色づきます。樹齢は、500～600年といわれ、生命力にあふれた樹木です。また、病害虫にも強くこの地域の気候や風土にも適した育てやすい樹木です。高さが20～45mと高く、天に向かって伸びていくその姿は威風堂々として美しくかつ雄大で、まさに雲南市の限りのない発展を象徴しています。市内では官公庁や学校、寺社の境内などに見られます。春の桜の美しさに対し、秋にはいちょうの黄葉で雲南市の美しい景観づくりを進めたいという思いを込めて選定しました。

平成18年12月21日制定

雲南市へのアクセス



出雲縁結び空港から
車（タクシー）で約20分



JR松江駅から
JR木次駅まで約1時間

JR出雲市駅から
JR木次駅まで約1時間

JR宍道駅から
JR木次駅まで約35分

JR木次駅から
徒歩で約10分



中国自動車道から
三次東JCT-ICから松江自動車道で45分
東城ICから国道314号で約2時間

松江自動車道から
三刀屋木次ICから約5分
松江玉造ICから35分
出雲ICから30分

